

C-7 幼児服の「あき」に関する一考察 —留め具の留め外しについて—

昭和女子大学文家政 鈴木キミ子 ○中曾根恵美子 村山京子 森山詩子

目的 昭和45年の本学会総会において、幼児服における部分開きについて着脱行動を観察し、妥当と思われる「あき」の位置・大きさなどについて検討を試みたが、今回は、引き続き、幼児服の「あき」における留め具の留め外し実験を行って幼児の動作の観察ならびに留め外しの所要時間を測定し、それらに基づき幼児服の留め具について検討したので報告する。

方法 3・4・5才の男女各10名計60名を対象とし、基礎（机の上に置かれた実験着の留め外し）と着用実験を行った。留め具は、幼児服に多く用いられているボタン・スナップの2種とし、各着衣に5コつけた。「あき」は全開とし、衿・袖はつけず、胴位までの上衣とした。上記の実験を行って幼児の留め具の留め外しに要する時間の測定・指先の動作・表情などを観察した。

- 結果 ①ボタン・スナップの留め外しには、主として母指と第2指で行う。
- ②ボタンとボタン孔・スナップの凹凸を確認しながら留め外しを行うので、ボタンの方がスナップより留め外しに要する時間が少ない。
- ③原型の衿ぐり線を基本とした幼児服における上部からの第1ボタンの留め外しには時間を要する。これは幼児における上肢の可動状態と、鎖骨のすぐ下に位置しているボタンの留め外しには、視覚が主ではなく経験的感覚が作用するためと思われる。
- ④デザイン性を考慮しない上記実験結果からは、③における第1ボタンの位置にボタンがない開襟型シャツがのぞましいと考えられる。